

「東郷学園義務教育学校の鳥丸（上地区）の鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5～7年生 計34人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年10月8・12・21・26日 東郷学園義務教育学校

(2) 発表の日時・場所

令和2年11月4日（水） 東郷学園芸術祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

鷹踊り（たかおどり）

(2) 由来

昭和30年代から、旧東郷町鳥丸地区（鳥丸上自治会）と旧宮之城町泊野地区は、地理的に近く地区間交流があり、毎年春には、花見をしながら親睦を深めていた。その席で披露されたのが、泊野地区の「鷹踊り」であった。鳥丸上自治会では、それまで踊り継がれているものがなく、泊野地区の「鷹踊り」を見てたいそう気に入り、泊野地区の鷹踊り保存会長にお願いし、本格的に習い、踊り方を少し変えて、踊られるようになったのが始まりである。

(3) 構成等

男女が一組になり、男子は鷹を、女子は餌さし棒を持って踊る。三味線・歌や太鼓に合わせた拍子木の音も軽やかに、鷹を手に持ち踊る袴姿の男性と、餌さし棒を持った絁着物にたすき姿の女性とが、かけあいをしながら踊りを進めていく。

5 保存会や地域との連携の具体

平成5年から平成23年までは、旧鳥丸小学校の児童が、鳥丸上自治公民館に行って鷹踊り保存会の方々から踊りの手ほどきを受け継承活動を行っていた。

平成24年からは、練習会場が旧鳥丸小学校体育館となり、鷹踊り保存会の方々に来ていただき、継承活動を行っていた。

旧鳥丸小学校が平成29年3月に閉校されたのに伴い、平成29・30年度は再編先であった旧東郷小学校にて、令和元年度からは東郷学園義務教育学校にて、ふるさと・コミュニケーション科における「地域を学ぶ学習」の一つとして、本活動を行っている。

鷹踊りで使用する道具については、鳥丸地区コミュニティセンターよりお借りしている。現在は、鷹踊り保存会の方々も高齢になり、児童生徒へ直接指導をいただくことが難しくなっているために、ビデオを参考にしながらの活動となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

鷹踊り保存会の方々の高齢化に伴い、鷹踊りの存続が危ぶまれている状況がある。学校においては、各地域に伝わる伝承活動を継承する観点から、今後もふるさと・

コミュニケーション科の学習としての取組を続けていく予定である。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【 東郷学園芸術祭における発表の様子 】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童生徒】

- 練習は、難しいところもあったけど、芸術祭本番では、思ったとおりに踊れたのでよかったです。
- 同じ振り付けの繰り返しだったので、動きがよりよくなるように練習しました。本番はかなり緊張しましたが、間違えずに踊ることができました。

【保護者】

- 鳥丸上地区の伝統である鷹踊りが、このような形で子どもたちに伝わっていることは、たいへんうれしく思います。

【教職員】

- 地域の伝統文化を学ぶことは、児童生徒の郷土を愛する心を醸成していくために欠かせないものだと考えています。鷹踊りの継承活動を続けながら、その歴史的経緯を学ぶことを通して、子どもたちの郷土愛と自信を高めていきたいと思います。